



## 年頭所感

### 工業会事務局の吹田キャンパスへの移転を目指し

大阪大学工業会会長

鈴木 胖

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本会の活動に多大のご協力、ご支援をいただき、まことに有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年はデフレからの脱却を目指す安倍政権が誕生し、長らく停滞していた日本経済もようやく回復の基調が見られます。9月には2020東京オリンピックが決定し、日本全体が将来に向けて自信を取り戻したように感じました。

さて当会は、平成24年4月一般社団法人に移行し、新しい定款に従い公益継続事業と共益事業（同窓会活動）という二つの事業を実施しています。公益継続事業としては

(1) 各種講演会の開催及び援助、数学講座の開催、工場や施設・工事現場の見学、科学技術展示会、ホームページ（TECHNO NET WEB）掲載による情報の伝達・啓発活動等の事業。

(2) 海外交流活動の援助・支援、大学の科学技術に関する調査・研究活動に対する援助（寄附）、大阪大学工業会賞の授与等の事業。

(3) 研究・科学論文誌「TECHNO NET」の刊行（年4回）。

(4) 企業の協力を得て各種セミナーを開催し、会員・非会員を問わず学生のキャリア教育を推進。

共益的事業としては同窓会活動、すなわち会員を対象とした総会（年1回）、理事会（原則年2回）、支部役員会（原則年2回）等の開催。

当会の最大の課題は会員の増強です。特に学生会員増強のため、入学時に当会への入会を勧めていますが、結果ははかばかしくありません。また、現役教員の入会率も40%強という有様です。このような状況を打開するためには大学との連携を一層緊密にし、学生や教職員に大学の教育研究活動への工業会の支援を身近に感じてもらうことが

基本的に重要であると考えています。

折しも、現在の工学部地区にある福利厚生会館（主に食堂）の耐震改修工事を機に、工学研究科では大阪大学未来基金に「工学部・工学研究科教育研究事業」を設置し、隣接して吹田福利交流研究棟（仮称）を新たに建設することを計画しています。この交流研究棟は6階建て、延床面積約3,700㎡の規模で、1階は食堂の拡張部分、2階は売店・コーヒーショップなど、3階は交流スペース・サロン、4～6階はオープンラボが設けられる予定です。総工費は約13億円で、2016年度中の完成を目指しています。

この度、掛下工学研究科長から工業会会長あてに交流研究棟の新設に資するため寄附のお願いがありました。この要請を受けて、当会では大学との連携をさらに強化し、活動の新しい展開を図ることを狙い、交流棟3階の交流スペースに当会事務局を移転することを検討することといたしました。このため企画小委員会を設け、寄附に係わる得失、寄附金の額などを議論・検討しました。この結果をもとに昨年10月30日に臨時理事会を開催し、福利交流研究棟の建設のため一億円の資金を提供することを決めました。これを本年6月16日開催予定の総会に諮り、工業会としての最終意思決定を行いたいと考えています。

紙面の都合で、詳しい説明は出来ませんでしたが、6月の総会ではこの重大事項を主要な議題と致しますので会員の皆様のご多数のご出席をお願い申し上げます。いささか唐突な内容を述べましたが、本会の活動への皆様の一層のご支援とご協力をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

（電気 昭和33年卒 35年修士）



## 新年のご挨拶

大阪大学理事・副学長  
(産学連携・情報担当)

馬場章夫

あけましておめでとうございます。同窓の皆様とご家族の方々の新しい年のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げます。

穏やかで、心休まる年であることを心から祈っています。しかし、政治、酷暑や秋台風、異常気象にともなう農業や漁業への影響、インフラの寿命問題など激動があたりまえのような最近の数年間ですが、今年もそのような気配が濃厚です。変化のテンポも年ごとに大きくなっています。すべての事が、速度に対応しきれていないのが現状かもしれません。

私が大阪大学で担当しています産学連携だけに限っても、昨年から今年にわたり大きな出来事がありました。「産学共同の研究開発による実用化促進（大学に対する出資事業）」と「革新的イノベーション創出プログラム（COIstream）」です。いずれも約10年間という長期にわたる大きな予算規模の国家プロジェクトであること、企業主導の産学連携であること、明確で具体的な出口成果が求められることなど、従来の大学における産学連携とは趣を大きく異にしています。前者は、200億円の資金を元手に企業と共同で事業を興して利益を出すというものです。後者は、企業のリーダーの下で産学連携によりイノベーションを起こすことを求められています。

平成16年に法人化され、国立大学のミッションの「教育」「研究」に加えて「社会貢献」が教育基本法として明記されました。今年の3月でちょうど10年が経過しますが、スタート時には「産学連携」「知財戦略」という言葉も耳新しく、技術相談が産学連携活動であったと記憶しています。昨年、上記の国家プログラムが発動された背景は、大学は社会に十分に貢献して

いない、産学連携が失敗に終わったということなのでしょう。少なくとも、期待したほどではないというのが大学に対する国民の評価と受け止められます。COIの予算請求書類の冒頭には「今までの大学主導の産学連携はすべて失敗であった」という一文があったと記憶しています。言い訳をするつもりはありませんが、いまの日本社会の焦りが反映されていることは確かであり、また当然ですが、連携ですので相手が存在します。もう少し頑張ってみますので、ご協力とご理解を賜りますようお願いいたします。

「成功とは、倒れても倒れても立ちあがることである」という文章を最近見かけ、妙に共感を覚えました。文章の意味とは異なるかもしれませんが、反省したり失敗だとばかり思っていると成功はおぼつかないものと直感してしまいました。変化のテンポの早いこの時代は、反省などしている時間ももったいないのでは…。批評や批判をするよりも、事象によっては皆がエンジンになることがあっても良いのではないのでしょうか。一定の結果が出てから、顧みるのもありでしょう。結果だけで評価され、対価を受けるのはまだしも納得がいくように思います。言い古されていますが、同じ土俵に上がって、理想に向かって競争的に努力できる環境があり、同時に誰もが逃げないで頑張る。一部の特権を持った人だけに任せては、何事も解決しない難しい時代になったのではないのでしょうか。

皆様方と一緒に、新しい世界を信じて努力を重ねられるような素晴らしい年が来ることを念じつつ、ご挨拶とさせていただきます。

(応化 昭和46年卒 48年修士 51年博士)



# 年頭所感

## 新春のご挨拶

大阪大学大学院  
工学研究科長・工学部長

掛 下 知 行

平成26年の年初にあたり、謹んでご祝詞を申し上げます。大阪大学工業会の皆様のご多幸を祈念申し上げます。

平成23年8月より工学研究科長を拝命し、2年間の任期の後、昨年8月26日より2期目の責務を担うことになりました。日ごろより、大阪大学工業会の皆様方からの温かいご支援を頂戴いたしましたことに対し、改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は国内外において経済の回復の兆しが見え始めたとは言え、様々な自然災害が日本を襲い、また3年前の未曾有の大災害以来のエネルギー問題や原発の後処理計画に対しては、依然として復興への明確な糸口がつかめない場面も多い中で迎えた新たな年明けとなりました。工学研究科におきましても、我が国が抱える諸問題に対しまして、真っ向から対処できる研究環境の整備と人材育成に邁進して参る所存です。

工学研究科は従来より基礎研究から応用研究に至るまで世界に誇る研究成果を長年にわたり発信し続けている教育研究機関であり、「世界を先導する研究力」という大きな柱に加えて、「人材育成」がもう一つの極めて重要な柱となっていることは言うまでもありません。特にグローバル社会の人材育成は不可避な課題であり、工学研究科におきましても、留学生の生活環境の維持・改善の対応のみならず、世界の大学と伍して研究・教育の世界的拠点となるための人材育成の環境整備のさらなる必要性を鑑み、昨年4月より旧留学生相談部を改組し、工学研究科・国際交流推進センターを立ち上げました。また、専任の国際交流担当教授を配置し、工学研究科の国際交流事業計画の策定、諸外国とのより深い交流関係の維持発展を担える環境整備に努めております。さらにバイオテクノロジー国際交流棟の改修・新築に伴い、同交流棟の1階に上記国際交流推進センターを昨夏より開所させていただきました。吹田キャンパスの千里門から北側に続くメイン道

路に面した訪れやすい場所にあり、留学生のみならず、日本人学生・教員との活発な交流の場所となっております。大阪大学工業会の皆様も是非ともお立ち寄りいただき、工学研究科が向かうべき国際交流の未来についてご意見をいただければ幸いです。

教育および研究環境への支援のための運用経費ならびに支援体制の整備は極めて重要な課題です。特に福利厚生関係の施設の整備は、現在吹田キャンパスの抱える大きな問題の一つです。工学研究科では、現在の福利厚生棟の北側に新たな6階建ての福利厚生研究棟を平成28年の完成を目指して建築することを昨秋決定し、現在、工学研究科の卒業生や関係企業の皆様方にご支援を募っております。貴大阪大学工業会からは、本事業に対し多大なるご寄附をいただくこととなり、この場をお借りして衷心より御礼申し上げます。

また他の学内建物の耐震改修に関しましては、昨年度より機械系ならびに環境エネルギー系建物の一部の改修・新築が進められており、本年度中にはこれらの建物の整備作業が完了し、引き続き、総合研究棟等の改修を計画しております。

現在の日本は、エネルギー問題をはじめとし、今後我が国が将来向かうべき姿を全世界から問われているターニングポイントにあります。将来にわたってグローバル社会の発展に恒常的に寄与できる「人材育成」と「世界に誇る研究力の展開」を核に置いて、我が国の将来を牽引できる人材輩出に力を注ぎ、その生き生きとした取り組みが国内外から高く評価され、それがまたより一層の魅力となって、将来を担う若い人たちを吸引する工学部・工学研究科でありたいと思っております。大阪大学工業会の会員の皆様方からのご支援・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

(学 界)



## 新年のご挨拶

大阪大学同窓会連合会会長  
大阪大学元総長・名誉教授

熊谷 信昭

会員の皆様 新年明けましてお目出とうございます。皆様それぞれに良い新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

118年前の明治29年（1896年）に誕生した官立大阪工業学校を源流とする私共の工学部は、その後、大阪高等工業学校、大阪工業大学等を経て昭和8年（1933年）に大阪帝国大学（現国立大学法人大阪大学）の第3番目の学部として新しく発足し、今年で81年目を迎えました。

この間、工学部は大阪大学と共に文字通り発展の一途をたどり、数々の学術的成果を挙げるとともに、多くの卒業生達が広く国内外の各界・各分野でめざましい活躍を続けており、各方面から高い評価を受けているのはまことにご同慶の至りです。

現在、大阪大学には大阪大学工業会をはじめ部局毎、系毎、学科毎、等々の多くの同窓会組織がありますが、平成17年（2005年）にこれらの連合体として大阪大学同窓会連合会が結成され、部局や学科の枠を越えて全同窓生と教職員が更なる一体感をもって一層の親睦と連携・協力を強め、大阪大学と全同窓生の益々の発展

に資することを目指しています。

この同窓会連合会には、外国語学部の母体となった長い伝統のある大阪外国語大学の同窓会「咲耶会」や、同じく大阪大学教養部の母体となった旧制大阪高等学校と旧制浪速高等学校の同窓会、色々な企業ごとの阪大卒業生による「職域同窓会」、さらには大阪大学に留学して現在も日本で活躍している外国人留学生達による「国際同窓会」などの会員も含まれています。

また、海外でも、主として工学部を卒業した外国人留学生達を中心として発足した、海外の同窓会としては最も古い歴史をもつタイ同窓会をはじめ、北米同窓会や上海同窓会、欧州同窓会などが次々に結成され、大阪大学同窓会連合会と連携しつつ活動しています。

大阪大学が輝かしい歴史と伝統の上に立って、これからも常に「地域に生き 世界に伸びる」活力溢れる若々しい大学として発展し続けるとともに、大阪大学工業会の会員の皆様方のお一層のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（通信 昭和28年旧制卒）

## 新年に思う

大阪支部長 藤井 宏一

新年おめでとうございます。皆様方お元気で、新年をお迎えになったと思います。

今年の干支は、甲午（きのえうま）。一般的には、うま年です。

「甲」はよろいかぶとの意で、草木や種子の芽を覆っている殻を指しており、時が来ると、種子や草木の若芽がかぶっていた殻を破って頭を出して来る、もののはじめを表しています。

「午」は陰気が下から地表に出ようと突き上げている象形文字で、「さからう」「そむく」という意をもっています。

甲午を組み合わせますと古い殻を破って、革新的に歩を進めようとしても、色々な妨害や抵抗があり思い通り出来ない年です。

今年は内外多事多難であっても、過去の負の事を参考とし、創造的に、着実に改革を重ね、信念責任をもって対処すれば大きく躍進する年です。今年も元気で頑張ります。

皆様の一層のご発展とご清栄を心より祈念申し上げます。

(冶金 昭和 26 年卒)



## 新年を迎えて

東京支部長 池田 博昌

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引き受けして 13 年目（7 期目）に入ります。支部の運営に当たり、会員の皆様の温かいご理解・ご協力に感謝しております。

今年の干支は甲午であり、アベノミクスの効果で好況が期待され、外交面でも明るい見通しとのことです。2 月にはソチ五輪、6 月にはブラジルでのワールドカップ、と日本を賑わすことでしょう。

昨年は、東京オリンピックの開催決定、伊勢神宮の式年遷宮、出雲大社の大遷宮、富士山の世界文化遺産登録、若田光一 ISS 船長の誕生など明るいニュースがありました。しかし、最近では定例化してきた竜巻、ゲリラ豪雨の被害など地球温暖化が急速に進んでいる兆候が頻繁に見られるようになってきました。伊豆大島の大災害も大変なことでした。お見舞い申し上げます。福島原発の汚染水問題、原発の再稼働、廃炉への道など大きな課題が目白押しです。消費税の増税が決まっても赤字国債の急速な増大への対策はまだ示されていません。悩んでいても仕方ありません。前向きに考えて明るい健康な生活を維持したいものです。

一昨年 3 月に発足した大阪銀杏技術士会は、着実な進展をしており、会員数も徐々に増加してきております。皆様のご理解をお願いします。

OKC 東京支部の活動に関しましては、月例の夕方の「二日会」、昼食会としての「二水会」はいずれも会員相互の懇親を深める会として着実に開催しております。二日会には平均 20 名、二水会には平均 12 名の参加があり、毎月賑やかに話題が広がっております。二日会の日の午後に実施している「囲碁同好会」も毎月盛況です。四大大行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」では最近では 65 名程度のご参加を頂いております。ゴルフの会については本年秋には 100 回大会を迎えるまでになりました。昨年 1 月から経済学部・法学部 OB との懇親ゴルフも始めることになり、団体優勝の栄を得ることができました。今年も 1 月 4 日に予定しております。「旅行同好会」も軌道に乗ってきており、「世界遺産・石見銀山と 60 年大遷宮・出雲大社への旅」として 3 日間の観光とゴルフを楽しむ会を 11 月に実施しました。冬季には「スキー同好会」の活動も積極的に行われております。

四大大行事には 100 名を目標として参加者の誘致に努力するなど、6 名の副支部長の絶大なご協力により活性化に努力しております。本年も、支部活動のさらなる活性化に向けて引き続き取り組みますので、ご期待いただきたいと思います。東京支部の会員諸氏におかれましては、支部の各種催事に奮ってご参加いただきますよう、年頭にあたりお願い申し上げます。

(通信 昭和 34 年卒)